

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救急現場で救急車が脱輪し、接触事故を起こした事案
3. 体験した事例の中心的要素	救急現場において、現着時救急車を停車していたが、対向車の離合が困難なため道路左側へ移動したところ、左前輪が橋のコンクリート基礎を乗り越えて脱輪し、車両左側面スライドドア及び助手席ドア部分がガードレールに接触し、前進・後退ができなくなったもの。
4. 体験した事例の原因・理由	機関員（運転手）の注意緩慢と、誘導員との連携がうまくいかなかったため。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。（延焼の広がりが思ったより早かった等）
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年6月7日 午後1時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：道路で発生
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	切り・こすれ
7. 事例体験時の活動	救急現場活動初期
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	その他：対向車を交わすため救急車を移動した際
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[56]歳、勤続年数[38]年、現場経験年数[38]年、階級[消防司令] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[31]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[10]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[29]歳、勤続年数[9]年、現場経験年数[9]年、階級[消防副士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	隊長	傷病者の観察、処置	
経過2	機関員	誘導員の誘導でバックし誘導員が車両に乗り込んだ後車両を発進させた際に左側面衝突させた	
経過3	隊員	救急車の後退を誘導した後救急車に乗り込み傷病者の処置を行った	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった 集中力、注意力がなかった 周囲の視界が確保できていなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

機関員の車両周囲の把握が出来ていなかった

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

事故を起こした本人に事故のショック等が残っている場合は、回復するまで機関員等から外す等の対策をしている。また、体調不良等は事前に上司が把握するようにしている。

○装備・資機材の対策について

特になし

○活動環境の対策について

特になし

○指揮・情報伝達の対策について

事故報告書を作成し、事故の概要、事故が起きた原因、事故を防ぐためにはどうしたらよかったのかなどまとめ、同じような事故を起こさないように注意している。